

共同助成(兵庫県遊技業協同組合)

「感染症発生時における避難所体験」事業

阪神・淡路大震災の記憶を次世代の若い人々に伝え 感染症対策を含め災害時の避難を体験してもらう

阪神・淡路大震災から25年が経過するなかで、震災を知らない若い世代が増えている。そうした世代に震災の記憶を伝え、家族と一緒に避難所生活を体験してもらい、さらに感染症発生時における避難所での対策を考えてもらうという事業が実施された。参加者は、災害の恐ろしさ、備えることの重要性について学んだ。



「感染症発生時における避難所体験」と題したイベントを実施し、スライド学習や語り部による震災体験を聞いて防災について学んだ



災害に強い街づくりや防災・減災の 意識高揚、普及啓発に取り組む

神戸市や神戸新聞社などで構成される「117KOBEBょうさいマスター育成会議」では、兵庫県内にある大学と連携し、阪神・淡路大震災の経験と教訓を伝えていくために「117KOBEBょうさいマスタープロジェクト」を発足させた。このプロジェクトは、兵庫県内の大学に在学する大学生が「117KOBEBょうさい委員会」を組織し、次代を担う若者に中心となって活動してもらうことで、すべての人に災害は「自分事」であることを認識してもらい、災害に備えることが減災につながることを伝えることを目的としている。また、災害時のリーダーとなる「117KOBEBょうさいマスター」を育成することで、災害に強い街づくりや防災・減災の意識高揚、普及啓発に貢献できるよう取り組んでいる。

同会議では、2020年の9月19日～20日に神戸市長田

区にある「ふたば学舎」において、「感染症発生時における避難所体験」と題した事業を実施した。これは震災から約25年が経過し、神戸市内でも震災を知らない市民が半数以上になるなか、震災当時に近い避難所生活を家族で体験してもらうことで、災害に対する意識を高め、防災や減災に通じる備えについて家族で話し合うきっかけづくりとなることを目的としたものである。それに加え、現在も猛威をふるっている新型コロナ感染症などの感染症が発生した場合に、命を守るために避難所でどのような感染症対策をすればいいのか、自分たちで考えてもらうことも目的のひとつであった。当初は、8月の実施に向けて計画を進めていたが、新型コロナ感染拡大が見られたため実施時期を延期したが、やはり参加人数が伸び悩んだ。締め切りを遅らせて周知を重ねたが、参加人数は、一般公募で集まった3組6名であった。

今後の避難所生活で避けて通れない 感染症対策もあわせて考える

事業では、まず、スライド学習と語り部体験談により、被災と避難に対する想像力を養ったうえで、実際に長田区の街歩き体験を通してそれをリアルに感じてもらうことにした。また、ゲームなどを通じ、防災・減災について考えてもらったり、避難所設営訓練では段ボールベッドを参加者が自ら作製し、実際に宿泊してもらったり、抜き打ちで避難訓練を行い、とっさに判断できるかを検証したりした。さらに、非常持ち出し袋を参加者と同団体のメンバーが持ち寄って意見交換をした。感染症対策としては手洗いのレクチャーや電気自動車を利用した避難体験を行った。

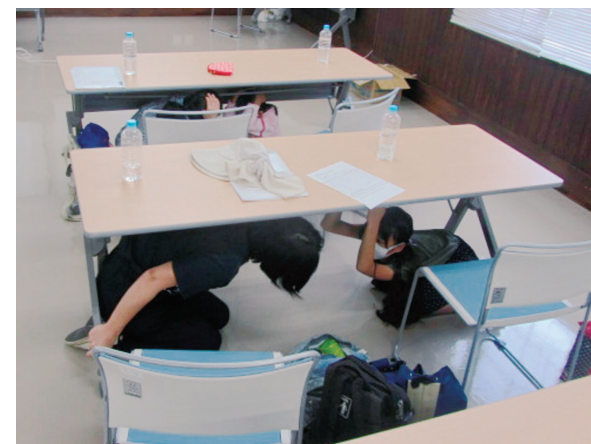
阪神・淡路大震災の経験や教訓を次の世代へどう伝えていくかは、震災当初からの課題と言われている。さらに2020年からの新型コロナウイルスの感染拡大により、災害時の避難所での感染症対策が喫緊の課題となっている。

時間の経過とともに震災の風化が進むなか、ただ単に震災の記憶を伝えるのではなく、その経験や教訓を基に、いつ起こるか分からない感染症を含む様々な災害に対し、「自分事」として考える習慣を身につけてもらい、備えや対策をすることの大切さを訴えることが重要だと、同団体では考えている。

避難所生活を体験するなかで、ソーシャルディスタンスやコミュニケーションの取り方、段ボールベッドの寝心地、非常持ち出し袋の有効性などを確認できたうえ、避難所を運営する難しさ、避難する人の気持ちなどを実際に経験できたことが大きかったのではないかと、同団体では今回の事業の意義について振り返っている。

兵庫県遊技業協同組合より

震災を知らない若い世代の方に災害の恐ろしさや備えることの重要性について学んでもらうことは、大変重要だと思います。今後も継続した活動を期待しています。



避難所設営訓練では段ボールベッドを作製し、実際に宿泊してもらったり、抜き打ちで避難訓練を行った



助成団体: 117KOBEBょうさいマスター育成会議

<https://www.kobe-np.co.jp/info/bousai/index.shtml>



今後も防災・減災の意識高揚と普及啓発に取り組んでいきます

実際に避難しなければならない状況となったとき、どう行動し、どう備えるべきか、どういったことが必要となるかなど、避難所体験を通じて、参加者に自分で考え行動することを伝えられました。また、コロナ禍のなか、今後も起こりうる避難所での感染症対策も同時に考える機会づくりにとなり、貴重な体験になりました。

117KOBEBょうさいマスター育成会議
事務局次長 長友 秀世 さん